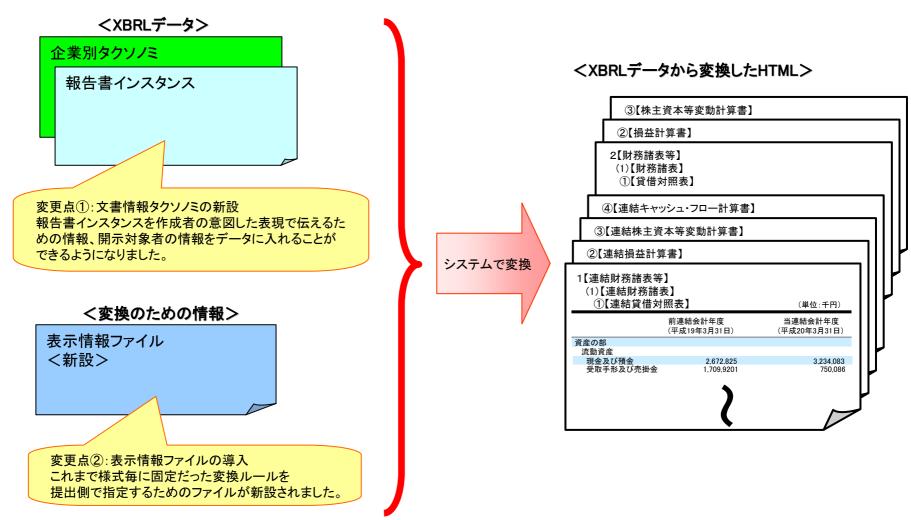
表示変換仕様の概要

2007年(平成19年)11月16日

1. 表示変換の概要

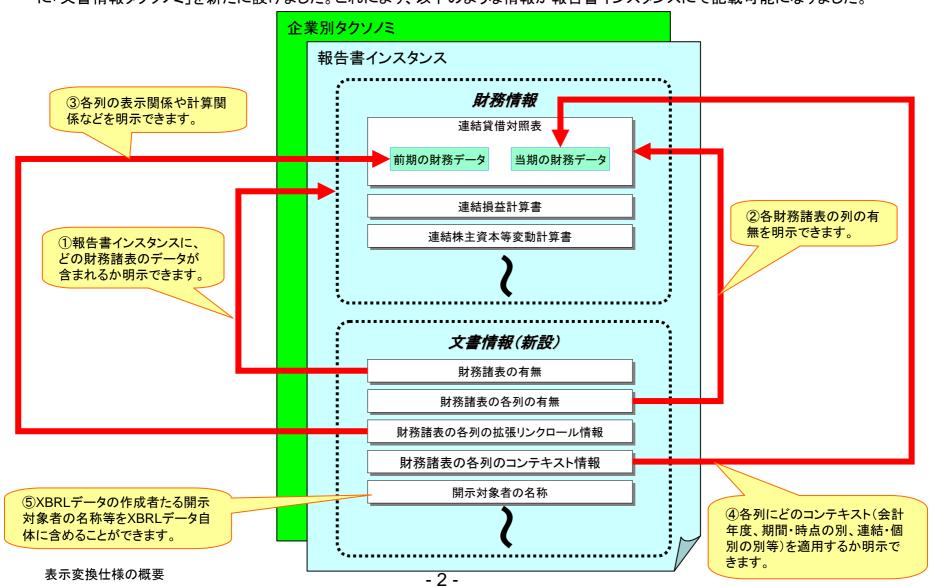
パイロット・プログラムでは、様式毎に定められた固定ルールに基づいて、XBRLデータからHTMLへの変換を行っていました。 今般、パイロット・プログラムの実施結果を受け、実務の多様性に対応すべく、EDINETタクソノミで表現できる情報量を拡大し、 提出者側から変換のための情報を指定できる仕組みを導入いたしました。



表示変換仕様の概要

2. 変更点①:文書情報タクソノミの新設

XBRLデータからHTMLを生成するにあたり、変換元となるXBRLデータがそもそもどのような意図で作成されたのかを表現できるように「文書情報タクソノミ」を新たに設けました。これにより、以下のような情報が報告書インスタンスにて記載可能になりました。



3. 変更点②:表示情報ファイルの導入

XBRLデータからHTMLを生成するにあたり、HTMLファイルの生成の際の各種条件を指定するための「表示情報ファイル」を導入いたしました。この「表示情報ファイル」によって、提出者側からHTML生成のための各種制御が可能になっています。

